

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 鵜飼 亜咲美

8月14日から8月20日までの7日間、台湾で行われた海外語学研修に参加しました。

中国語講座では、簡単な会話や歌、パイナップルケーキを賭けたゲームなどをしました。最もはっきりと覚えたのは「我想要吃芒果冰」です。

文化講座では、変わった投げ方をするコマや念願のディアボロ、ひたすらに走る舞龍をしました。



観光では、かの有名な九份や故宮博物館、衝撃の米血糕を食べた新竹夜市、220 kgの金塊を持った金瓜石、さすが so expensive な最高に美味しい鼎泰豊の小籠包を食べた台北 101 などに行きました。そして、街中では日本のものの多さに驚きました。スーパーやコンビニの商品、看板などいたるところに日本語が見られました。あれ、ここ本当に台湾？と思うこともありました。ただ、タピオカティのタピオカの量にはさらに驚きました。カップの3分の1程ががタピオカでうまっています。本当です。さて、ここまでは普通の台湾旅行と大差ありません。では、この研修と旅行との違いはなんなのか。それは、以下のふたつにあると思います。

一つめは、元培医事科技大学また病院との交流があるとです。元培医事科技大学の影像醫學博物館と病院見学では、実際の現場や人、機器などにふれたことで、自分の目指すものをリアルに感じる事ができました。専門的なことはわからない部分も多くありましたが、それによってより知りたい、学びたいという思いが増しました。

二つめは、元培医事科技大学の学生さんの存在です。とても明るくて、面白くて、優しいひとたちでした。私のつたない言葉やジェスチャーを丁寧に聞いてくれました。観光や買い物では中国語がわからない私たちをいつもサポートしてくれました。人混みの中でははぐれないようにと手を取ってくれました。美味しいものがあるとシェアしてくれました。歓送会では一緒に歌って、踊って、サプライズのムービーや色紙をプレゼントしてくれました。会が終わったあともみんなゲームをし、お菓子を食べて、夜遅くまでパーティーをしました。言葉が完璧には伝わらない、さらには7日間という短い時間でこんなにも仲良く



なれるのかと正直驚きました。言葉より気持ちというのは本当かもしれません。ただ、もっとスムーズに話すことができれば、より深い交流を持てたのだらうと考えると、語学を学業以外のかたちで見ることでもできそうです。

この研修を通して様々な体験や発見をし、多くのことを学びました。ここで得たことは必ずこれから先に活かしていきます。本当に楽しかったです。このような貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝いたします。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 大倉 千晶

8月14日から20日まで、台湾の元培大学サマースクールに参加しました。もともと台湾という国に興味

があったこと、外国人の友達を作ることで見聞を広めること、そして外国の医療現場について知りたいと思ったことが、今回のサマースクールに参加しようと思ったきっかけでした。

今回のサマースクールでは、普通の観光旅行では体験できなかったであろうたくさんのお話を体験できたことが、大きな収穫でした。その貴重な体験の数々を紹介します。



まず、一番貴重だと感じたのは、現地に住んでいる学生さんとの交流でした。元培医事科技大学の学生さんとはとにかくフレンドリーで優しい人たちでした。台湾に着くまでは言葉の異なる学生さんとどのようにコミュニケーションをとればよいのか、またどんな学生さんがいるのか不安でいっぱいでしたが、実際に会うと、そんな不安はすぐに解消されました。

きちんと目線を合わせて、聞き取りやすい流暢な英語でゆっくりと話してくれました。また、私たちの片言の英語にもきっちり耳を傾けてくれて、言いたいことをちゃんと聞き取ってくれました。元培大学の学生さんは日本が大好きだと言っていて、お互いに沢山の母国語を教え合いました。そのおかげもあってか、最初は英語だけでやりとりしていたのに最終日に近づくにつれて、英語と中国語と日本語の混ざりあった三種類の言語を自然と使いながらコミュニケーションをとるようになっていました。

また、今回のサマースクールでは、現地の病院を訪れる機会がありました。台北市内でも最大級であろう病院を訪れ、実際に働く技師さんやスタッフさんからお話を聞くことができたのは、とても貴重な経験です。病院のスタッフさんたちは、私たちの素朴な疑問にも一つひとつ丁寧に回答してくださりました。また、病院内の施設を紹介してもらったときも「みなさんの家のようにリラックスして、病院見学を楽しんでください」とおっしゃってください、緊張することなく病院を見学することができました。台湾の病院は、提供する医療の品質を高めるために、常に新たな制度を取り入れて進歩しています。先進国である日本の医療と変わらな



い高レベルの医療を提供しているということを知り、驚くとともに感銘を受けました。



今回のサマースクールでは、元培医事科技大学の学生さんや先生方、そして見学させていただいた病院のスタッフさんなど、沢山の方のおかげで貴重な体験をすることができました。この体験は一生の宝です。台湾の人々の優しさに触れれば触れるほど、日本ばかりにとどまっているのはもったいないという気持ちになりました。これからも自分の視野を広げていき、国際人としても活躍できるような人物になりたいと強く思いました。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 永松 晴奈

8月14日～8月20日までの7日間、台湾に語学研修に行ってきました。



1日目、私はドキドキしつつもさほど実感がわからないまま関西空港へ向かいました。「ホテルがよかったね」という話をしながら飛行機に乗るとあっという間に台湾の空港へ到着。到着ロビーに着くと台湾の学生は笑顔で出迎えてくれました。パートナーから名札をかけてもらい、大学へ。最初はまだぎこちなかったけれど、夕食後にタピオカミルクティーを飲みながら交流をしたことで少しは打ち解けることができました。

2日目、午前中は歓迎会をして中国語の授業がありました。4月から少しだけ中国語を勉強していたため授業内容がわかりやすく非常に楽しかったです。この授業ではパートナーどうして互いに日本語と中国語を教えあう場面があり、自然と会話が弾みました。おかげでお互いのことがよくわかり、仲良くなることができました。午後からは文化に関する授業で中国コマ、定点コマ、龍踊りをしました。中国コマは全くうまくできず悔しかったです。しかし、定点コマは定点に2回コマを乗せることができ非常にうれしかったです。龍踊りはとにかく動きました。たくさん汗をかいたけれど皆で遊ぶことができ楽しかったです。文化の授業が終わると学内のこじやれたところでちょっとしたパーティーをしました。お菓子を食べたり数字のゲームをしたりして大変盛り上がり、いい思い出になりました。



3日目、午前中は台湾の食べ物や観光スポット、歌などを学びました。日本では考えられない食べ物が数多くあり驚いたけれど、台湾には多くの観光スポットがあり魅力が満載だと思いました。歌の中には日本の歌と同じ音程で歌詞の意味もほとんど同じものもあり、台湾と日本の関係性を強く実感しました。午前中から午後にかけて学内の影像医学博物館や新竹市内の病院を見学しました。影像医学博物館では現在の医療機器の姿



に至るまでの過程を学ぶことができ、時の流れを実感しました。今回の見学で非常に関心が高まり、これからの学習が楽しみになりました。病院見学では台湾の病院事情を学びました。研修時にビデオを作って間違いを見つけてくという教育方法は面白く、非常に効果的だと思いました。病院見学の後は新竹市内のショッピングモールに行きました。台湾の学生に台湾で有名なものやおいしいものを教えてもらいながら、お土産をたくさん買って楽しかったです。

4日目、午前中は臺安医院に行きました。なんといっても一番衝撃を受けたのは病院内にジムがあること。患者さんのリハビリとしても病院勤務者の運動不足解消としても非常にいいなと思いました。また、臺安医院は食事を重要視しており、健康に対する意識が強い病院だと実感しました。午後からは国立故宮博物院に行きました。展示物の説明が中国語と英語しかなくきちんと理解することはできなかったけれど、実際に目で見て歴史に触れ、昔の技術の素晴らしさに感動しました。夜は土林の夜市に行きました。台湾ならではの食べ物を実際に食べてみたり、買い物をしたりして楽しかったです。日本で買うより安いものについつい目がいき、次から次を買っていったのはいい思い出です。また、夜市はパートナーと行動を共にし、趣味や好きな芸能人の話で盛り上がり、更にお互いのことを知るいい機会となりました。



5日目、午前中は新北市立黄金博物館に行きました。本物の金を初めて触り、その重みを感じました。また、昔日本の神社だったところまで登り、参拝をしました。天気が良かったこともあり、汗をかきながら頑張って登ったその場所からの景色は最高でした。午後からは九份に行きました。ジブリ映画「千と千尋の神隠し」の舞台となった景色が目の前に広がり感動しました。九份でもたくさん食べたけれど、中でも魯肉飯とマンゴーかき氷は絶品でした。九份の後は台北101へ。1階には高級ブランド店がずらりと並んでおり、さすが台湾の中心だと思いました。



6日目、午前中は中国語の授業の後バドミントンをしました。中国語の授業では早口言葉や四字熟語を習い、楽しかったと同時に非常に勉強になりました。この授業のおかげで中国語の奥深さに気づくことができ、後期の中国語の授業が楽しみになりました。バドミントンは先生に技を教えてもらいながらゲームをしました。たくさん汗を流しながらも珍プレー続出で自然と笑顔が生まれ、最高に楽しかったです。午後からは、さよならパーティーでした。最初に台湾の学生が作ってくれた動画を見ました。6日間の思い出が蘇ってきて涙が止まりませんでした。また、私の好きな Hey! Say! JUMP の曲を使ってくれてその心意気に感動し更に涙が溢れてきました。動画を見た後はお互いダンスを披露しあい、非常に盛り上がりました。そしてお土産交換をしました。まさか台湾の学生全員からのメッセージがもらえるとは思ってもなかったため嬉しかったです。パーティーが終わると最後の夜ということで学生のみでのパーティーを開きました。お菓子を食べながら様々なゲームをし、楽しかったです。最初はホテルがいいと



言っていたけれど、寮に泊まっていたことで台湾の学生とたくさん交流できたので寮でよかったなと思いました。

7日目、朝起きてまだ日本に帰るという実感がわからないまま部屋の片づけをしました。朝食を食べた後、重い荷物をバスに乗せ空港へ出発。空港に着いてから6人中5人の台湾の学生との別れはあっという間でした。また会おうと約束をし笑顔で手を振りました。残ってくれた1人の台湾の学生とフードコートで最後のひと時を過ごした後出発ロビーへ。私たちの姿が見えなくなるまで見送ってくれました。台湾の学生と別れた後は空港で最後の買い物をし日本に帰りました。

今回の研修で台湾が大好きになりました。それはなんといっても台湾の方の人柄に感動したからです。台湾の学生はいつも私たちのことを気にかけてくれてサポートしてくれました。この研修で仲良くなった台湾の子とは今もLINEで連絡を取っています。次会う時にはもっとコミュニケーションを図れるように、そしていつか今回の恩返しができるように、中国語や英語の勉強を頑張ろうと心に決めました。

最後に、この台湾語学研修に参加するよう勧めてくれた両親に感謝します。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 1回生 松本 唯

この大学に通っているからこそ経験できる貴重な機会を逃したくない、という一心で参加させていただきました。この1週間、日を追うごとに私は積極的になることができその都度、充実感が増していきました。つまり、それだけ実の詰まったプログラムだったのだと思います。想像していた以上に多くのことを学ぶことが出来ました。その内のほんの一部ではありますがご報告したいと思います。

## <3か国語が飛び交う教室>



中国語を学ぶ授業では主に台湾の学生たちが積極的に教えてくれました。私も日本語を彼らに積極的に教えるようにしていました。そのため受け身ではなく、終始皆の学習意欲が授業を作っていたと思います。このように彼らとお互いの母国語を英語で教え合う、つまり1度に3か国語を使うという経験は非常に新鮮でした。いつもより速いスピードでものにすることができていた気がします。授業以外でも常に三か国語を使って話していました。彼らとの何気ない会話の中から日常でよく使う中国語を学ぶことができました。

## <彼らにも知ってほしい>

2つの病院を訪ねました。そこでは新人技師の育成方法や病院内見学や健康志向の病院食など病院ごとのこだわりを実際に見たり、話を聞いたりしました。他に台湾の医療制度についても初めて学びました。私たち日本人が台湾の医療制度に興味を持つように彼らも日本の医療制度に興味を持っていました。「日本に留学をして日本の高齢者福祉について学びたい」と話してくれた台湾の学生もいました。病院見学に行ったことで台湾の医療制度を知ることだけに留まらず、私自身が日本の医療制度についてもっと知りたい、台湾の学生たちにもぜひ知って欲しいと感じました。

## <異国で日本を感じる>

台北市内を観光した日は、日本が台湾を統治していた時代に建てられた神社に行ったり、夜市のお店で日本で一昔前に流行ったキャラクターものが売っているのを見ました。大学前の全家（ファミリーマート）にも日本で見慣れたアイスやお菓子が売っていたので、台湾にいながら日本を感じる機会が多かったです。



## 〈もちろん台湾文化も〉



授業の中で台湾の文化について教わる機会が多々ありました。昔、日本に統治されていた時代があったとはいえ、日本にはない台湾独自の文化がそこにはしっかりと確立されていました。特に旧正月興行のメインイベントである龍踊りは台湾の子たちでさえめったに経験できないことだったようでお互いに楽しみながら学ぶことが出来ました。

## 〈錄影申請微笑〉

「撮影中ですので微笑んでください」そう書いてあると思い、台湾の学生に“very funny.”と伝えました。私はこの時、台湾はすごくユーモア溢れる国だと感じました。しかし反応がすごく微妙だったので私の解釈が間違っていることにすぐに気づきました。聞いてみると‘防犯カメラ作動中’という意味だと台湾の学生が教えてくれました。そのこと知った時は思わず微笑んでしまいました…



## 〈最後まで…〉



出発前日の夜に行われた歓送迎会では台湾の学生たちがこれまでにとった写真や動画を一つの動画にして見せてくれました。一枚一枚に思い出が詰まっていて、彼らとお別れするのが本当に辛くなりました。他にもダンスを披露しあったり一緒に歌ったり踊ったり夜遅くまで語り合ったりもしました。最後の最後まで賑やかで、他人に気を使うことができる思いやりに溢れる人たちでした。

彼らと共に寮で寝泊まりしたこと、観光地を案内してもらったこと、台湾の文化・中国語を学んだことは私の貴重な経験になりました。こうして現地の学生たちと関わり、自国について教え合うことができ良かったです。個人で旅行に行っても経験できないことがたくさん経験できました。私たちの大先輩が築かれた元培科技大学で再び学ぶ機会があれば良いなと思います。



今回お世話になった台湾の学生たちとの出会いを大切に、今後も交流を続けていきたいと思っています。最後になりましたが、この研修に携わって下さったすべての方々から感謝いたします。本当にありがとうございました。

# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 佐野 宏行



今年の台湾へのサマースクールの参加は2回生二名、1回生四名でした。私は2回生で先輩に当たる立場なのでそれを念頭においていました。お相手をして下さるホストの学生さんたちも六名で本学の参加者と同じ人数でした。1日目、関西空港から約三時間で台北に着くのですが、フライトの発着が遅れました。しかし、その他は大したアクシデントもなく場は進行していきました。実を言うと台北に到着するまで私は少し不安でした。「このサマースクールのホストの学生はどんな人たちのだろうか？」1週間朝から晩まで一緒にいてくれるお付き合いになるのでどんな人なのか少し気になっていました。

台北に予定時刻より遅れて着くと、元培医事科技大学の学生さん達が空港で待っていてくれました。自分の1週間のパートナーの方が先にネームカードをかけてくれて嬉しかったのを覚えています。バスで自分たちの宿となる元培医事科技大学の学生寮まで移動しました。

宿舎に着くと一緒に部屋に泊まる台湾の学生さんと対面しました。彼はとても素直で真面目で、とても楽しい1週間を過ごすことが出来たと同時に色々なことを彼から学びました。言語が違うのですべての会話を理解出来なかったし、もともと私は大人しいタイプなので様々な話ができただけではなかったのですが、要所所で‘謝謝’とか‘sorry’と言えれば通じ合う気がしましたし、1週間経てばすっかり仲良くなっていました。夜に二人で室内にいて彼が部屋から出ていくとき、‘You can sleep earlier.’と必ず言ってくれてとても嬉しかったのを覚えています。私も‘Thank you! Thank you!’と言いました。きっと彼は「自分が部屋に戻ってくるまで起きて待ってなくていいよ」と、言いたかったのだと思います。思いもしない心遣いに感動させられたのを覚えています。

なんでもそうであると自分では思っていることがあって、大学生活でもそうだと思うのですが一番最初はとても記憶にのこるということ、です。例えば大学入学の4月というのは集中しているのでとても時間の流れが濃密に感じられるし、とても記憶に残ります。同じように、サマースクールの一週間の中で最も印象的だったのは初日であった気がします。フライト自体もある種の覚悟が求められますし、様々な緊張・興奮・不安が入り混じっていました。台湾の学生さんと対面した後は非常に安心してはいましたが、神経はかなり使っていました。

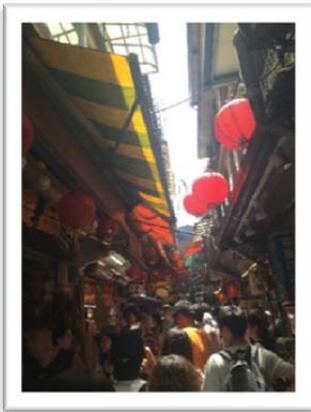
中国語の授業では、中国語での自己紹介やコマやヨーヨーなどの台湾の文化に触れたり、歌を歌ったりしました。とても有意義な授業であったように思います。授業中も台湾のホストの学生さんには付きっきりで中国語を教えて貰ったり、逆に私たちが日本語を教えたりととても楽しく貴重な時間を過ごせたかと思いません。

右の写真は中国語の歌に乗せてステップを踏んでいるところです。みんなでステップを踏みましたし、またぞうさんの歌も中国語で歌いました。ぞうさんとはダァシャンと言うそうです。

私たちはまた台湾の病院も訪れました。國泰総合医院と臺安医院を訪れ、院内の見学と病院の説明のプレゼンテーションを聴きました。質問もできたので質問もしました。

國泰総合医院ではCTやMRIやマンモグラフィ、単純X線等の機械を見学できました。今まで学校で習ってきて写真でしか見れなかった本物の機械を見ることができました。小さな感動があったのを覚えています。ここでは優れた技師の行う検査をビデオテープに映して、それを見ながら自分の検査にフィードバックし、精度を高めていっていることも聞けました。よりよい検査をしたい、患者に施したいという熱意が伝わってきます。

また臺安医院では予防医療をしていて院内にジムもあるということでジムに行きみんなで運動をしました。患者さんからの評判も良いそうです。



最後に台湾全体の印象としてはやはりアジアならではの活気を感じました。アジアらしい街の混み合った光景や自然の良さなども体験でき非常に貴重な研修旅行に参加出来てよかったです。ホストの方々も日本の学生とはかなり異なる印象を受けました。でも、みんなよくしてくれてとても嬉しかったのを覚えています。台湾の元培医事科技大学の先生も仰ってましたが、当大学の学生は他人の面倒を見るのがとても好きだ、と。知的で心のこもった対応は非常に私の心に入ってきました。みんなで力を合わせて成しえたこの研修旅行が無事に終わって本当に安心しています。本大学のメンバーのみんな、先生方、そして

台湾のホストのみんなと先生方、

応援してくれた家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。



# 海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 谷 友香利

私がこの研修に参加しようと思った理由は、様々な経験をしてみたいという思いと、普通の海外旅行と違い、海外に友人を作りやすいイベントだと思ったためである。そして後者の予想通り、6人のボランティアの学生達と仲良くなることができた。



参加してみて、改めてコミュニケーションの難しさと楽しさを感じることができた。日本語以外で会話するのは初めてであり、その上私はコミュニケーションを行うのが苦手なため、なかなかうまく話しかけることができなかった。しかし台湾の学生方が積極的に沢山話しかけてくれたおかげで、少しずつではあったが会話を楽しむことができた。ただし、恥ずかしながら今後はリスニング力を磨く必要を感じた。

また、文化の違いも面白かった。一番顕著だったのがトイレ事情である。海外では多いらしいが、トイレトペーパーは持ち込みで、トイレに紙は流せない。慣れるまでトイレに流してしまうこともよくあるらしい。観光地のトイレには、言葉が通じなくてもわかるよう絵の注意書きがされているところもあった。

病院見学では、國泰総合病院と臺安医院を見学させていただいた。今回行った病院では、技術的な面では日本とあまり差異はないように感じた。検査の一連の流れを動画にして間違い探しをさせることで学習を動的なものにする工夫がされていたり、予防医学を目的としたプログラムが実際に行われており、興味深かった。



今年度は参加者全員初参加ということで、多くの不安があったが、経験者の方々や先生方、事務の皆様、台湾のボランティアの方々のおかげで無事研修を終えることができた。非常に貴重で、面白い経験ができた。

最後に、学長先生、指導して下さった先生方、事務の皆様、江本先生、ボランティアスタッフの皆様、一緒に参加した皆、後押ししてくれた家族へ、ありがとうございました。